

『フェンスレス』オンライン版（創刊号）● 特別付録  
資料

## 総目次

### 『プロレタリア文学』（白揚社）

『進歩』（現代文化社）

『エクリバン』（エクリバン社）

# 『プロレタリア文学』

白揚社發行

昭和五年六月（昭和五年八月）（全三冊）

プロレタリア・レアリズムと大衆化  
われらのメーデー

田辺耕一郎  
足立国松

第一卷第一号 昭和五年六月号 五日發行  
——創刊号——

労働か賃金を！  
（＊扉カット）

兵番人

前衛の今

支那の同元（大説）

丘頤の感想  
(平論)

『太陽のなし田』と僕

プロレタリア・リアリズムの論問題

農民文学とプロレタリア・リアリズム  
寺三プロノマリア・ノマリズム

## 児童文学とプロレタリア・リアリズム

演劇とアート・リアリズム

木山矢義

72	68	64	61	59
75	71	68	64	61

ア・リベテインスキ  
武田麟太郎  
立野信之  
鹿地亘  
不二純二  
佐左木俊郎  
貴司山治  
片岡鉄兵  
徳永直

芸術派なるものは有在せず  
芸術家は自由であるか？

芸術派の正体 — 反芸術派・宣言その 1 —  
所謂「芸術派」に就いて

芸術派に關して

エロチック文学について

スユル・レアリスト批判 — そして一般に  
革命前期小ブルヂオア反動的諸流派の特  
質について —

友を呼ぶ——幼時の記憶をたどりて（\*詩）  
××インターナショナルへ（\*詩）  
獄窓通信（\*詩）  
解団式——の歌曲を東京交通労働組合の同  
志に捧ぐ——（\*詩）  
国際芸術ニュース

小宮山明無  
田正義作曲  
窪川鶴次郎  
長谷川進  
白須孝輔  
白須孝輔  
編輯部

136 135	134 133 132 131 128	126 125 123 117 115 114	112 107 102 92 84	79 78 75
145	134	130	128 126 124 122 117 115	113 111 106 102 92

ソヴェート・プロレタリア文学の方向（ロシア・プロレタリア作家聯盟総会の決議）

ア・プロレタリア作家聯盟總会の決議)  
感心した作品・その理由 黒田辰男  
立野信之

黒田辰男 立野信之  
阪井徳三 小林多喜二  
越中谷利一 江馬修  
小宮山明敏 平林たい子  
中本たか子 小牧近江 橋本英吉  
壺井繁治 藤枝丈夫 田辺耕一郎  
鶴田知也 秋田雨雀 間宮茂輔  
土井逸雄 白須孝輔 貴司山治  
木村利美 横本楠郎 木村利美  
窪川鶴次郎 鈴木清次郎 鹿地亘

新作家二〇人集  
犯人捏造  
兄の同志に送る手紙  
工場地帯小景（一場）  
何處にもゐない男  
熊の沢石炭山の報告

第一卷第二号

編輯だより

橋本英吉 壺井繁治  
久板栄二郎 小島勗 本庄陸男

23	18	13	8	2
5	5	5	5	5
27	22	17	12	7

川口浩 高見順 須山計一 上野壯夫 岩淵威夫 宮木喜久雄 今東光 德永直 黒田辰男 奥村五十嵐 山内謙吾

162 161 160 160 160 160 160 160 160 159 159 159 159 159  
          |  
        161



熊の出る開墾地……佐左木俊郎	鉄の流れ……セラフィモイツチ、藏原惟人（訳）	郡司次郎正
赤い魔窟と血の旗……井東憲（*転載）	マルキシズム文学論……青野季吉	
勇敢なる兵卒シュベイクの冒險……ヤロス	芸術社会学……フリーチエ、昇曙夢訳	
ラフ・ハーシエク、辻恒彦（訳）	ストライキ宣言……白須孝輔	
赤い旗……榎本楠夫	編輯だより	
文芸時評 社会民主主義とは何か	第一巻第三号 昭和五年八月号 五日発行	編輯部
ワイン・クチュリエ／清水真澄訳		
鹿地亘 貴司山治	赤色スポーツ	
三人の壯丁	国際芸術ニュース2	
街の子	国際芸術ニュース1 ロシアの新オペラ	
社長の馬車	続労働市場	
敗くもの	敗れたが	
文芸時評	国際芸術ニュース2 英国に於けるプロ映画	
	橋本英吉 上野壯夫 田辺耕一郎 井上健次	徳永直
	貴司山治 貴田麟太郎 貴司山治 中野重治	
	立野信之論 山田清三郎 言論	
	鹿地亘論 主に「動員線」及び以後の作品	
	について	
	橋本英吉論 小島勲論 越中谷利一 越中谷利一 阪井徳三 細野孝二郎	
金親清	細野孝二郎 本庄陸男 小堀甚二	
文芸時評	西沢隆二 木村利美 壱井繁治 山田清三郎	
三人の壯丁	西沢隆二 木村利美 壱井繁治 山田清三郎	
社会民主主義とは何か	95 92 92 90	佐々元十
ワイン・クチュリエ／清水真澄訳	95 92 92 90	編輯部
鹿地亘 貴司山治	89	小宮山明敏
三人の壯丁	89	
文芸時評	89	
	83	
	78	
	77	

国際芸術ニュース5 「ナツブ」の創刊	原稿応募規定
プロレタリア映画が当面してゐるシナリオの形式	それは如何なる方向へ進むべきであるか
国際芸術ニュース4 世界プロレタリア革命	
小説選集	
労働者の詩二篇	
報告（ドイツ一労働者）	
屑屋（支那一労働者）	
法律	
プロレタリア作家プロファイル(1) 中野重治	
プロレタリア作家論	
片岡鉄兵論	
鉄の綱領	
武田麟太郎論	
中野重治論	
貴司山治論	
山田清三郎論	
立野信之論 —主として描寫に就て—	
山田清三郎	
鹿地亘論 主に「動員線」及び以後の作品	
について	
橋本英吉論 小島勲論 越中谷利一 越中谷利一 阪井徳三 細野孝二郎	
金親清	

136 132 128 124	120 118 110 106 103 98	95 92 92 90	89	84	83	78	77
139 135 132 128	124 120 117 109 106 102	97 94	91	89	83		

断想  
国際芸術ニュース3 アンリ・バルビュツス

の近作

反射鏡 ジヤーナリズムの害毒

暴露短篇

重役は云つたが

動脈を操る職場

作家への公開状

『心理の春』を通じて細田民樹氏に寄す

松田解子  
細野孝二郎

井上哲郎  
徳永喜生

森彬雄  
力丸俊一

清国三郎

老労働者  
労農芸術家聯盟

武田麟太郎の『党員』

女性のプロレタリア作家

鹿地亘君に問ふ

資料 声明書

編集部

\* 「」は、濁点あり

### 白揚社版『プロレタリア文学』について

昭和五年六月から八月まで、毎月五日発行で計三冊確認されてい  
る。左翼的商業出版社「白揚社」（東京市神田区美土代町二ノ二）發  
行。編輯兼發行人は中村徳二郎。印刷所は山田印刷所。定価三十五  
銭。日本プロレタリア作家同盟機関誌『プロレタリア文学』（昭和七  
年一月～昭和八年十月）と直接の関係はない。

創刊号のカット、岡本唐貴、朝野方夫、竹本賢三、鈴木賢二。  
同志社大学人文科学研究所・日本近代文学館所蔵原本を参考した。

（村田裕和）

164	158	156	155	154	154	153	151	145	142	142	141	140
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
163	157	156	155		154	153		150	145		149	141